

# 高知県感染症発生動向調査（週報）

2025年 第51週 (12月15日～12月21日)

## ★県内での感染症発生状況

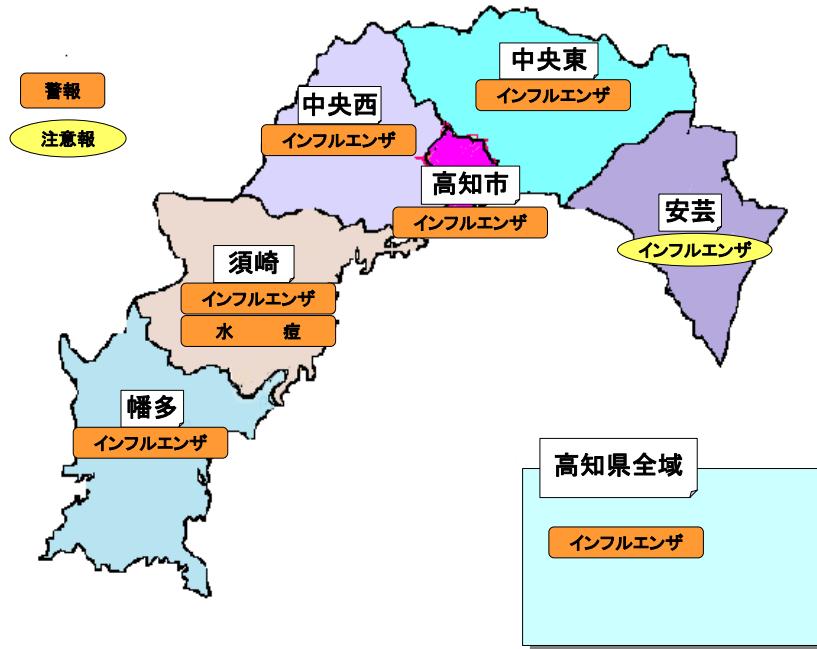
急性呼吸器感染症及び小児科定点把握感染症（上位5疾患）

疾病名	推移	定点当たり 報告数	保健所管内別の傾向
インフルエンザ	➡	54.92	須崎、安芸で増加していますが、幡多で減少しています。
感染性胃腸炎	➡	2.05	安芸で急増、高知市で増加していますが、中央西、中央東で急減、幡多で減少しています。
新型コロナウイルス感染症	➡	1.97	中央東で増加していますが、中央西で減少しています。
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	➡	1.50	須崎、中央東で急増、高知市で増加していますが、幡多で急減しています。
伝染性紅斑	➡	0.50	須崎で急減、高知市で減少しています。

## <推移の基準>

急増	↑	前週と比較し、2倍以上の場合	減少	↓	前週と比較し、0.5倍以上～0.8倍未満の場合
増加	➡	前週と比較し、1.2倍以上～2倍未満の場合	急減	⬇	前週と比較し、0.5倍未満の場合
横ばい	➡	前週と比較し、0.8倍以上～1.2倍未満の場合			

## ★地域別警報・注意報状況



## ★週報の発行日

週報は、毎週「木曜日」の午後3時30分以降に発行します。

ただし、「火曜日」「水曜日」「木曜日」が祝日の場合は、「金曜日」になります。

### ※年末・年始の週報について

第52週（令和7年12月22日から令和7年12月28日まで）と第1週（令和7年12月29日から令和8年1月4日まで）の週報は、年末年始の医療機関の休診により報告が遅れるため、合併号として令和8年1月8日（木）に発行します。

## ★気になる感染症

### インフルエンザ

高知県の定点当たりの報告数は、3週連続で警報値を超えていました。また、学校等から集団発生による休校、学年閉鎖、学級閉鎖が多数報告されています。年齢別では0歳0.9%（18件）1～4歳19.4%（404件）5～9歳26.7%（557件）10～14歳20.3%（423件）15～19歳9.1%（190件）20歳代4.7%（99件）30歳代4.7%（98件）40歳代4.4%（91件）50歳代3.3%（69件）60歳代2.7%（56件）70歳代2.0%（42件）80歳代以上1.9%（40件）の報告となっています。

外出後の手洗いなどの感染予防、症状がある方は、咳エチケットを心がけ、早めに医療機関を受診しましょう。保育園や幼稚園、学校や社会福祉施設など集団生活の場では特に注意してください。

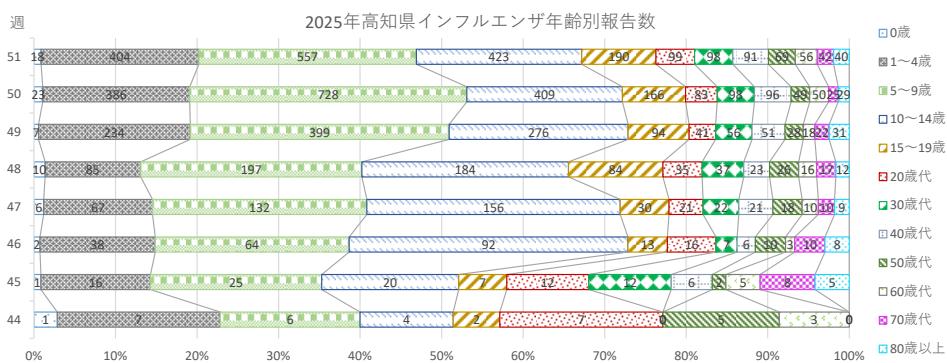
県内のインフルエンザ定点医療機関での迅速診断では、インフルエンザA型が89.9%（1391件）、インフルエンザB型が10.1%（157件）と2種類報告されています。

全国では、原因ウイルスとして、第47週～第51週はAH3が最も多く95.4%（472件）、次いでB（ビクトリア系統）3.6%（18件）、AH1pdm09が0.8%（4件）、B（系統不明）が0.2%（1件）の順で検出されています。



学校等における集団発生 ※学校等欠席者・感染症情報システム

保健所		安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多	計
休校	第51週	—	—	—	—	—	1	1
	累計	—	1	—	—	1	3	5
学年閉鎖	第51週	3	5	5	1	1	5	20
	累計	7	10	19	14	9	8	67
学級閉鎖	第51週	—	4	19	3	3	—	29
	累計	1	16	71	11	6	6	111



### ●インフルエンザ予防接種

インフルエンザは、その年により流行の程度に差がありますが、例年11月頃から患者が増え始め、12月から3月頃にかけて流行します。インフルエンザワクチンは、インフルエンザウイルスに感染した場合に発症を一定程度抑える効果や重症化を予防する効果が認められています。ワクチン接種後、抗体ができる予防効果を発現するには、およそ2週間かかると言われています。かかりつけ医等、医療機関に相談のうえ、予防対策の1つとして予防接種をご検討ください。

## ●予防方法

～かかるために～

- \*外出した後などにはこまめに手洗いしましょう。
- \*外出時はなるべく人ごみを避けましょう。
- \*十分な栄養と休養をとりましょう。

～うつさないために～

- \*咳やくしゃみなどが出るときはできるだけマスクをするなど「咳工チケット」を守りましょう。
- \*インフルエンザが疑われるときには、登校を控えるなど、外出はできるだけ控えましょう。

## ●学校感染症

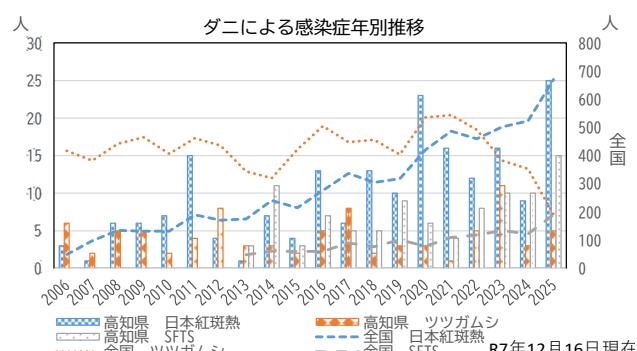
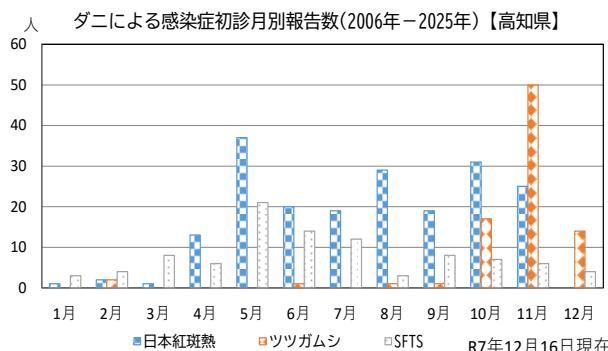
インフルエンザは学校保健安全法（同法施行規則第19条）では、出席停止期間の基準が「発症した後5日を経過し、かつ、解熱した後2日（幼児にあっては、3日）を経過するまで」と規定される学校感染症（第2種）です。ただし、この出席停止期間は病状により学校医その他の医師において感染のおそれがないと認めたときは、この限りでないと規定されています。

## ●厚生労働省 「インフルエンザ総合ページ」

[http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou\\_iryou/kekakukansenshou/infu influenza/index.html](http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryou/kekakukansenshou/infu influenza/index.html)

### ダニの感染症(つつが虫病・日本紅斑熱・SFTS)

中央東保健所管内から「つつが虫病」の報告が1件ありました。



つつが虫病は「ツツガムシ」に咬まれることによって感染します。高知県では秋から冬にかけて多く報告されており、ダニの一種である「ツツガムシの幼虫（0.2mm）」が媒介する感染症です。全てのツツガムシが病原体を持っているわけではありません。

屋外に生息する比較的大型（吸血前で3~4mm）の「マダニ」が媒介する感染症である「SFTS（重症熱性血小板減少症候群）」や「日本紅斑熱」にもご注意ください。

予防対策については、ツツガムシ・マダニに「咬まれない」ことです。

屋外活動する時には、長袖や長ズボンで肌の露出を避けることや、虫除け剤（有効成分：ディート）を活用するなどの対策をして注意しましょう。

また、ネコやイヌなどの動物が感染、発症した場合、その血液や唾液などの体液に直接触れることで感染する可能性があります。ペットの健康状態の変化に注意し、体調不良の際には、咬まれたり舐められたりしないように注意してください。必要な場合は動物病院を受診しましょう。また、ペットがマダニに咬まれないようダニ駆除剤を使用することも有効ですので獣医師に相談しましょう。

## ●予防方法

- \*ツツガムシ・マダニに「咬まれない」ことが予防策になります。
- \*忌避剤（虫よけ剤）を効果的に使用しましょう。（説明書の注意書に沿って使用してください。）
- \*飼っているネコやイヌが外で咬まれることもあります。ブラッシング等をこまめにしてマダニを持ち込まないようにしましょう。
- \*体調不良のペットに触れたときは、手洗いを心がけてください。

## ●発熱等の症状が出た場合

- \*野山に入って数日～数週間経過した後、発熱等の症状が出た場合は、医療機関を受診してください。
- \*受診の際は、発症前に野山に立ち入ったこと（ツツガムシ・マダニに咬まれた可能性）を伝えてくだ

さい。

- ツツガムシ・マダニから身を守る方法  
野山や畑などに出る時には、長袖・長ズボンを着用し、肌の露出を避けましょう。  
首にはタオルを巻くか、ハイネックのシャツを着用しましょう。  
シャツの袖口は軍手や手袋の中に、裾はズボンの中に入れましょう。  
ズボンの裾は長靴の中に入れるか、ズボンの裾に靴下を被せましょう。  
野外活動後は、上着や作業着はそのまま家に持ち込まないようにしましょう。  
また、シャワーや入浴でダニが付いてないかチェックしましょう。（「できもの」のように見えることがあります。）  
ガムテープや粘着クリーナーを使って服に付いたダニを取り除く方法も効果的です。



出典：国立感染症研究所 昆虫医学部

## ●参考

- \*重症熱性血小板減少症候群（SFTS）に関するQ&A（厚生労働省）  
[http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekakukansenshou19/sfts\\_qa.html](http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekakukansenshou19/sfts_qa.html)
- \*高知県衛生環境研究所 ダニが媒介する感染症及び注意喚起パンフレット  
<https://www.pref.kochi.lg.jp/doc/2024022700074/>

## ★全数把握感染症

類型	疾病名	件数	累計	内 容	保健所
2類	結 核	1	57	90歳代 男性	高知市
4類	つつが虫病	1	6	80歳代 男性	中央東
5類	侵襲性肺炎球菌感染症	1	16	0~4歳 男性	高知市
		1		70歳代 男性	
5類	百日咳	1	1,322	10~14歳 女性	安 芸
		1		50歳代 女性	中央東
		1		50歳代 女性	高知市

## ★病原体検出情報

受付週	臨床診断名	臨床症状	年齢	性別	保健所	ウイルス、細菌の検出状況
51	手足口病	発疹	5	女	須崎	Rhinovirus
51	手足口病	39℃, 発疹	4	男	須崎	Enterovirus 71
						Rhinovirus
51	手足口病疑い	発疹	4	女	須崎	Rhinovirus
51	咽頭結膜熱	39℃	2	女	須崎	Adenovirus 1
51	不明発疹症	発疹	10か月	男	須崎	Epstein-Barr virus
51	EBウイルス感染疑い	—	6	女	須崎	Rhinovirus
51	—	39℃, 下痢, 腹痛	2	男	幡多	Adenovirus 41
						Astrovirus NT

受付週	臨床診断名	臨床症状	年齢	性別	保健所	ウイルス、細菌の検出状況
51	急性呼吸器感染症（インフルエンザ）	39℃, 咳嗽	14	男	須崎	Influenza virus A H3 NT
51	急性呼吸器感染症（インフルエンザ）	39℃	10	女	須崎	Influenza virus A H3 NT
						Parainfluenza virus 2
						Rhinovirus
51	急性呼吸器感染症（インフルエンザ）	39℃, 咳嗽	11	男	高知市	Influenza virus B/Victoria

## 前週以前の受付

受付週	臨床診断名	臨床症状	年齢	性別	保健所	ウイルス、細菌の検出状況
50	水痘	39℃, 発疹	10	男	須崎	Rhinovirus
50	不明発疹症	40℃, 発疹	2	男	須崎	Adenovirus 1

## ★定点医療機関からのホット情報

保健所	医療機関	情 報
中央東	早明浦病院小児科	インフルエンザ A 型 26 例 (10~15 歳) 伝染性紅斑 3 例
	JA 高知病院小児科	インフルエンザ A 型 143 例、B 型 25 例、臨床診断 63 例 第 50 週マイコプラズマ (Lamp 法) 1 例
高知市	けら小児科・アレルギー科	マイコプラズマ肺炎 1 例 (13 歳) インフルエンザ A 型 216 例、B 型 34 例 COVID-19 2 例
	はまだ小児科	インフルエンザ A 型 126 例、B 型 18 例
	福井小児科・内科・循環器科	溶連菌感染症+インフルエンザ A 同時感染 2 例 (9 歳男、11 歳女) 溶連菌感染症 3 例 インフルエンザ A 型 110 例、B 型 13 例 COVID-19 0 例
	ふないキッズクリニック	インフルエンザ A 型 88 例、B 型 10 例 インフルエンザ A・B 同時感染 1 例
高知市	細木病院小児科	マイコプラズマ肺炎 1 例 (5 歳女) マイコプラズマ感染症 3 例 (2 歳女、5 歳男、12 歳女) ノロウイルス胃腸炎 1 例 (2 歳男) 水痘 (予防接種 2 回済) + 溶連菌感染症 1 例 (9 歳女) 溶連菌感染症 8 例 感染性胃腸炎 5 例 伝染性紅斑 1 例 インフルエンザ A 型 69 例、B 型 10 例
中央西	くぼたこどもクリニック	マイコプラズマ感染症 1 例 (4 歳男) インフルエンザ A 型 57 例 (臨床診断 5 例)、B 型 4 例 COVID-19 1 例
	日高クリニック	アデノウイルス扁桃炎 3 例 (1 歳女 2 人、3 歳女)
須崎	もりはた小児科	肺炎マイコプラズマ 1 例 (10 歳) インフルエンザ A 型 141 例、B 型 2 例 COVID-19 2 例 水痘 5 例
幡多	こいけクリニック	口タウイルス胃腸炎 1 例 (2 歳女)

## ★注目すべき感染症

### インフルエンザ

2025 年第 1~49 週 (2025 年 12 月 10 日現在)

インフルエンザは、インフルエンザウイルスを原因病原体とする急性の呼吸器感染症で、世界中で流行がみられる。主な感染経路は、咳、くしゃみ等により発生する飛沫による感染（飛沫感染）であるが、物の表面等に付着した飛沫に触れた手指を介した接触感染でも伝播する。症状としては、発熱、頭痛、全身倦怠感、筋肉痛・関節痛などが出現し、鼻汁・咳などの呼吸器症状がこれに続く。通常の感冒と比べて全身症状が強いことが特徴であるが、1 週間前後の経過で軽快することが多い。症状のみで新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) との鑑別は困難である。

2025 年第 15 週より急性呼吸器感染症 (ARI) サーベイランスが開始されたことに伴い、インフルエン

ザの発生状況は、従来のインフルエンザ/COVID-19 定点医療機関（全国約 5,000 力所）から、全国約 3,000 力所の急性呼吸器感染症（ARI）定点医療機関（小児科定点約 2,000 力所、内科定点約 1,000 力所）からの届出により把握することとなった。そのため、過去シーズンとの比較に際しては、データの解釈に一定の注意を要する。

わが国ではインフルエンザは冬季に流行が見られ、定点当たり報告数でみると、2022/23 シーズン（シーズン：第 36 週～翌年第 35 週）では 2023 年第 6 週（12.91）、2023/24 シーズンでは 2023 年第 49 週（33.72）、そして 2024/25 シーズンでは 2024 年第 52 週（64.39）でそれぞれピークに達した。2025/26 シーズンにおいては、例年より早い第 39 週に全国の定点当たり報告数が 1.00 を超え、第 47 週には 51.12 に達した。しかし、第 49 週時点では 38.51（患者報告数 148,314）であり、2 週連続の減少となった。

なお、2025 年第 49 週（2025 年 12 月 1～7 日）の都道府県別の定点当たり報告数は、福岡県（65.56）、宮崎県（62.54）、長野県（57.04）、愛知県（53.37）、大分県（52.91）、埼玉県（50.82）、長崎県（48.73）、熊本県（48.17）、鹿児島県（48.12）、山口県（48.08）、新潟県（47.09）、京都府（46.55）、愛媛県（46.35）、岡山県（45.92）、栃木県（42.81）、三重県（41.87）、石川県（40.91）、山梨県（40.89）、山形県（40.79）、香川県（40.53）、福井県（40.33）、奈良県（39.48）、静岡県（39.29）、岐阜県（38.98）、島根県（38.80）、茨城県（38.36）、岩手県（38.24）、滋賀県（38.10）、富山県（37.73）、兵庫県（37.47）、千葉県（37.08）、佐賀県（36.63）、広島県（35.50）、青森県（35.25）、群馬県（34.44）、神奈川県（34.33）、徳島県（33.55）、鳥取県（33.48）、高知県（33.08）、福島県（32.02）、宮城県（30.27）、北海道（29.08）、大阪府（27.08）、東京都（25.17）、和歌山県（24.62）、秋田県（20.68）、沖縄県（18.07）の順となっている。全国 47 都道府県中、15 都道府県では前週の報告数よりも増加し、32 都道府県では前週の報告数よりも減少した。また、2025 年第 36～49 週の定点医療機関からの累積報告数の男女比は、10 歳未満の年齢群では 1.11:1、10～19 歳の年齢群では 1.23:1 と男性に多いが、20～59 歳の年齢群では 1:1.32、60 歳以上の年齢群では 1:1.20 と女性に多かった。なお、60 歳以上では男女人口差の影響もある点に留意が必要であるが、20 歳未満では男性が多く、20 歳以上では女性が多い傾向は、例年と同様であった。

インフルエンザ入院サーベイランス（全国約 500 力所の基幹定点医療機関が週毎に報告するインフルエンザによる入院患者数、重症例の推移を反映する）においては、2025 年第 36 週以降、概ね増加傾向であったが、第 48 週から第 49 週にかけては減少した（2,263 例→1,951 例）。年齢群別の内訳としては、1 歳未満（107 例）、1～4 歳（322 例）、5～9 歳（281 例）、10 代（142 例）、20 代（36 例）、30 代（30 例）、40 代（32 例）、50 代（61 例）、60 代（132 例）、70 代（283 例）、80 歳以上（525 例）であった。また、2025 年 12 月 10 日現在、今シーズンのインフルエンザによる入院患者の累積報告数 9,924 例のうち、10 歳未満が 4,073 例、70 歳以上が 3,593 例であった。昨シーズン同時期と比較すると、報告された入院例のうち 10 歳未満が占める割合は増加し（27.1%→41.0%）、70 歳以上が占める割合は減少（47.5%→36.2%）していた。

病原体サーベイランス [IASR 速報グラフ ウイルス（インフルエンザウイルス）] によると、2025 年 12 月 10 日現在、2025/26 シーズンのインフルエンザウイルス分離・検出報告数は 733 例で、AH1pdm09 が 72 例、AH3 亜型が 628 例、B 型が 33 例（ビクトリア系統 28 例、系統不明 5 例）であった。また、直近 5 週間（2025 年第 45 ～ 49 週）では 296 例で、AH3 亜型が 284 例（96%）、B 型が 8 例（3%）、AH1pdm09 が 4 例（1%）の順であった。

インフルエンザ脳症（5 類感染症全数把握対象疾患である急性脳炎の届出のうち、病型の病原体としてインフルエンザウイルスの記載があったもの）は、2022/23 シーズンで 44 例、2023/24 シーズンで 191 例、2024/25 シーズンで 182 例であった。2025 年第 36～49 週にかけては 88 例報告されており、うち、10 例が死亡例であった。また、検出されたインフルエンザウイルスは A 型 81 例（92%）、血清型の未記載 7 例（8%）であった（2025 年 12 月 10 日現在）。

感染症法に基づくサーベイランス以外でインフルエンザの流行状況を示唆する情報として、全国の保育所・幼稚園、小学校、中学校、高等学校におけるインフルエンザ様症状の患者による休校数、学年閉鎖数、学級閉鎖数を集計する学校サーベイランスと、国立病院機構 140 病院において医師がインフルエンザを疑い、インフルエンザ迅速抗原検査を実施した検査件数と検査陽性数が報告されることにより、検査陽性率が把握できる「国立病院機構におけるインフルエンザ全国感染動向」がある。

学校サーベイランスでは、2025 年第 36～49 週までのインフルエンザ様症状の患者による休校数、学年閉鎖数、学級閉鎖数の累積は、休校 1,011 件、学年閉鎖 9,190 件、学級閉鎖 27,197 件となり（2025 年 12 月 12 日現在）、昨シーズン同時期における累積の休校 54 件、学年閉鎖 746 件、学級閉鎖 2,850 件を大きく上回った。「国立病院機構におけるインフルエンザ全国感染動向」においても同様の動向であった。直

近の 2025 年 11 月 1~15 日に関して、前年同時期の結果と比較すると、検査件数は 3,000 件ほど多く (6,418 件→9,519 件)、検査陽性件数も約 10 倍であり (121 件→1,199 件)、検査陽性率も大きく上回っていた (1.9%→12.6%)。なお、ARI 病原体サーベイランスにおいても、インフルエンザウイルス A 型の陽性率は第 39 週以降一貫して上昇しており、国立病院機構のデータと同様の傾向が全国的にも確認されている。

また、COVID-19 については、2025 年は直近で、第 34 週 (定点当たり報告数 8.73) をピークに第 49 週まで概ね減少傾向であるが、今後の動向の注視が重要である。

インフルエンザを含む呼吸器感染症への個人の予防策として、マスクの適切な着用を含む咳エチケット、手指衛生の徹底、適切な換気の実施等が推奨される。医療・福祉施設へのウイルスの持ち込みを防ぐことや、ワクチンの接種を検討することも重要である。なお、2025/26 シーズンは、A 型 2 亜型と B 型ビクトリア系統による 3 価のインフルエンザワクチンが製造されており、65 歳以上の高齢者、又は 60~64 歳で心臓、腎臓若しくは呼吸器の機能に障害があり、身の回りの生活が極度に制限される者、あるいはヒト免疫不全ウイルス (HIV) により免疫機能に障害があり、日常生活がほとんど不可能な者は、予防接種法上の定期接種の対象となっている。2025/26 シーズンを通したインフルエンザワクチンの供給量は、約 5,293 万回分が見込まれている。

世界保健機関 (WHO) によると、諸外国においても、インフルエンザの流行ならびにインフルエンザウイルス A 型 (H3N2) の陽性率の増加が確認されている。

インフルエンザの今後の発生動向について、引き続き包括的に監視していくことが重要である。

(国立健康危機管理研究機構 IDWR2025 年 49 号より)

発行：高知県感染症情報センター（高知県衛生環境研究所）

〒780-0850 高知市丸ノ内2-4-1 高知県保健衛生総合庁舎2階

TEL：088-821-4961 FAX：088-821-4696

※この情報に記載のデータは 2025 年 12 月 23 日現在の情報により作成しています。

# ★高知県感染症情報

## 疾病別・地域別報告数

高知県感染症情報 (49定点医療機関)

定点名 (定点数)	保健所 疾病名等	第51週 令和7年12月15日(月)～令和7年12月21日(日)							高知県衛生環境研究所				
		安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多	計	前週	全国(50週)	高知県(51週末累計) R6/12/30～R7/12/21	全国(50週末累計) R6/12/30～R7/12/14	
急性呼吸器 感染症 (36)	急性呼吸器感染症(ARI)*	158	346	1429	323	328	228	2,812 ( 74.00 )	2,914 ( 76.68 )	310,970 ( 80.96 )	59,278 ( 1559.95 )	8,371,415 ( 2181.76 )	
	インフルエンザ	73	538	843	190	221	222	2,087 ( 54.92 )	2,142 ( 56.37 )	142,434 ( 36.96 )	15,393 ( 405.08 )	1,639,828 ( 397.25 )	
	新型コロナウイルス症	3	16	26	9	16	5	75 ( 1.97 )	81 ( 2.13 )	4,653 ( 1.21 )	8,913 ( 234.55 )	766,000 ( 185.56 )	
小児科 (26)	咽頭結膜熱			2			1	3 ( 0.15 )	2 ( 0.10 )	706 ( 0.30 )	246 ( 12.30 )	45,472 ( 17.83 )	
	A群溶血性レンサ球菌感染症			2	25		2	1	30 ( 1.50 )	23 ( 1.15 )	6,446 ( 2.75 )	2,016 ( 100.80 )	271,400 ( 106.43 )
	感染性胃腸炎	2		30	1		8	41 ( 2.05 )	36 ( 1.80 )	11,091 ( 4.73 )	3,547 ( 177.35 )	754,395 ( 295.84 )	
	水痘					5		5 ( 0.25 )	3 ( 0.15 )	886 ( 0.38 )	195 ( 9.75 )	39,970 ( 15.67 )	
	手足口病							( )	4 ( 0.20 )	157 ( 0.07 )	393 ( 19.65 )	28,973 ( 11.36 )	
	伝染性紅斑		3	7				10 ( 0.50 )	15 ( 0.75 )	1,365 ( 0.58 )	878 ( 43.90 )	155,254 ( 60.88 )	
	突発性発疹			4		1		5 ( 0.25 )	1 ( 0.05 )	488 ( 0.21 )	254 ( 12.70 )	34,011 ( 13.34 )	
	ヘルパンギーナ				1			1 ( 0.05 )	( )	53 ( 0.02 )	797 ( 39.85 )	49,530 ( 19.42 )	
	流行性耳下腺炎							( )	( )	76 ( 0.03 )	34 ( 1.70 )	6,279 ( 2.46 )	
	RSウイルス感染症			1				1 ( 0.05 )	2 ( 0.10 )	1,366 ( 0.58 )	1,023 ( 51.15 )	107,394 ( 42.12 )	
眼科 (3)	急性出血性結膜炎							( )	( )	7 ( 0.01 )	( )	1,017 ( 1.47 )	
	流行性角結膜炎							( )	1 ( 0.33 )	452 ( 0.65 )	34 ( 11.33 )	29,260 ( 42.28 )	
基幹 (8)	細菌性結膜炎			1				1 ( 0.13 )	1 ( 0.13 )	4 ( 0.01 )	5 ( 0.63 )	417 ( 0.87 )	
	無菌性結膜炎							( )	1 ( 0.13 )	13 ( 0.03 )	8 ( 1.00 )	959 ( 2.00 )	
	マイコプラズマ肺炎		1	2				3 ( 0.38 )	8 ( 1.00 )	410 ( 0.85 )	320 ( 40.00 )	18,974 ( 39.53 )	
	クラミジア肺炎 (オウム病は肺く)							( )	( )	5 ( 0.01 )	( )	138 ( 0.29 )	
	感染性胃腸炎 (RSウイルスに限る)							( )	1 ( 0.13 )	5 ( 0.01 )	25 ( 3.13 )	1,786 ( 3.72 )	
計 (ARIを除く)		78	560	941	201	245	237	2,262 ( 62.20 )		170,617	34,081 ( 1108.78 )	3,951,057	
前週 (ARIを除く)		55	612	928	238	176	312		2,321 ( 64.52 )				

\*ARIの定義：医師が感染症を疑う外来症例で、かつ発症から10日以内の急性症状（咳嗽、咽頭痛、呼吸困難、鼻汁、鼻閉のいずれか1つ以上）を呈している症例

\*\*ARIの集計法：上記症状の患者を集計するため、インフルエンザやCOVID-19、咽頭結膜熱等の患者と重複している場合があります

注 ( ) は定点当たり人数

高知県感染症情報 (49定点医療機関) 定点当たり人数

定点名 (定点数)	保健所 疾病名等	第51週							高知県衛生環境研究所			
		安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多	計	前週	全国(50週)	高知県(51週末累計) R6/12/30～R7/12/21	全国(50週末累計) R6/12/30～R7/12/14
急性呼吸器 感染症 (36)	急性呼吸器感染症(ARI)*	52.67	49.43	109.92	80.75	82.00	32.57	74.00	76.68	80.96	1559.95	2181.76
	インフルエンザ	24.33	76.86	64.85	47.50	55.25	31.71	54.92	56.37	36.96	405.08	397.25
	新型コロナウイルス症	1.00	2.29	2.00	2.25	4.00	0.71	1.97	2.13	1.21	234.55	185.56
小児科 (26)	咽頭結膜熱			0.25			0.33	0.15	0.10	0.30	12.30	17.83
	A群溶血性レンサ球菌感染症		0.50	3.13		1.00	0.33	1.50	1.15	2.75	100.80	106.43
	感染性胃腸炎	2.00		3.75	0.50		2.67	2.05	1.80	4.73	177.35	295.84
	水痘					2.50		0.25	0.15	0.38	9.75	15.67
	手足口病								0.20	0.07	19.65	11.36
	伝染性紅斑		0.75	0.88				0.50	0.75	0.58	43.90	60.88
	突発性発疹			0.50		0.50		0.25	0.05	0.21	12.70	13.34
	ヘルパンギーナ				0.50			0.05		0.02	39.85	19.42
	流行性耳下腺炎									0.03	1.70	2.46
	RSウイルス感染症			0.13				0.05	0.10	0.58	51.15	42.12
眼科 (3)	急性出血性結膜炎									0.01		1.47
	流行性角結膜炎								0.33	0.65	11.33	42.28
基幹 (8)	細菌性結膜炎			0.20				0.13	0.13	0.01	0.63	0.87
	無菌性結膜炎								0.13	0.03	1.00	2.00
	マイコプラズマ肺炎		1.00	0.40				0.38	1.00	0.85	40.00	39.53
	クラミジア肺炎 (オウム病は肺く)									0.01		0.29
	感染性胃腸炎 (RSウイルスに限る)								0.13	0.01	3.13	3.72
計 (ARIを除く)		27.33	81.40	76.09	50.75	63.25	35.75	62.20			1108.78	
前週 (ARIを除く)		19.67	88.93	75.83	61.00	45.75	47.63		64.52			

\*ARIの定義：医師が感染症を疑う外来症例で、かつ発症から10日以内の急性症状（咳嗽、咽頭痛、呼吸困難、鼻汁、鼻閉のいずれか1つ以上）を呈している症例

\*\*ARIの集計法：上記症状の患者を集計するため、インフルエンザやCOVID-19、咽頭結膜熱等の患者と重複している場合があります

## 疾病別・年齢別報告数

高知県感染症情報 (49定点医療機関) 疾病別・年齢別報告数

2025年

51w

定点 (定点数)	疾病名等	合計	0歳	1~4歳	5~9歳	10~14 歳	15~19 歳	20~29 歳	30~39 歳	40~49 歳	50~59 歳	60~69 歳	70~79 歳	80歳以 上								
急性呼吸 器感染症 (38)	急性呼吸器感染症 (ARI)*	2,812	211	540	639	533	209	109	105	107	87	77	86	109								
定点 (定点数)	疾病名等	合計	~6ヶ月	~12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10~14 歳	15~19 歳	20~29 歳	30~39 歳	40~49 歳	50~59 歳	60~69 歳	70~79 歳	80歳以 上
急性呼吸 器感染症 (38)	インフルエンザ	2,087	11	7	89	79	100	136	113	119	111	110	104	423	190	99	98	91	69	56	42	40
新型コロナウイルス感 染	75			1										2		9	5	4	10	9	14	20
定点 (定点数)	疾病名等	合計	~6ヶ月	~12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10~14 歳	15~19 歳	20歳以 上						
小児科 (20)	咽頭結膜熱	3			1	1										1						
	A群溶血性レンサ球菌咽 頭炎	30		1	2	1			6		1	6	4	6	3							
	感染性胃腸炎	41		2	7	3	5	5	1	4	4		2	2	2	4						
	水痘	5							1	1			1	2								
	手足口病																					
	伝染性紅斑	10					1			4		2	2	1								
	突発性発疹	5			2	2				1												
	ヘルパンギーナ	1		1																		
定点 (定点数)	疾病名等	合計	~6ヶ月	~12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10~14 歳	15~19 歳	20~29 歳	30~39 歳	40~49 歳	50~59 歳	60~69 歳	70歳以 上	
眼科(3)	急性出血性結膜炎																					
定点 (定点数)	疾病名等	合計	0歳	1~4歳	5~9歳	10~14 歳	15~19 歳	20~24 歳	25~29 歳	30~34歳	35~39 歳	40~44 歳	45~49 歳	50~54 歳	55~59 歳	60~64 歳	65~69 歳	70歳以 上				
基幹(8)	細菌性結膜炎	1												1								
	無菌性結膜炎																					
	マイコプラズマ肺炎	3		1		1					1											
	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)																					
	感染性胃腸炎 (コロナウイルスに限る)																					

\*ARIの定義：医師が感染症を疑う外来症例で、かつ発症から10日以内の急性症状（咳嗽、咽頭痛、呼吸困難、鼻汁、鼻閉のいずれか1つ以上）を呈している症例

\*ARIの集計法：上記症状の患者を集計するため、インフルエンザやCOVID-19、咽頭結膜炎等の患者と重複している場合があります

疾病別年次報告数推移 2025年第51週  
(急性呼吸器感染症定点・小児科定点・眼科定点)

